

緩和ケア病棟看護師の仕事に向かう姿勢 ～支援的ユーモアの試行から～

国立病院機構四国がんセンター

○宮内 明美 中村 陽子 中島 由希 山口 真祐子

中岡 初枝 芝 美栄

高知大学医学部附属病院

森木 妙子（1階東病棟）

【目 的】

支援的ユーモアを導入し、緩和ケア病棟看護師の仕事に向かう姿勢がどのように向上したかを明らかにする。

【用語の定義】

支援的ユーモアとは、上野より「自己や他者を励まし、許容し、心を落ち着けることを目的として表される」ユーモアとする。

【方 法】

対 象：A 病院緩和ケア病棟に勤務する看護師 14 名。

データ収集：始業前 2～3 分間、支援的ユーモアを表すエッセイ等を 28 日間朗読した。その後、半構成的グループインタビューを行った。

分 析 方 法：逐語記録を作成し、モチベーション向上に関係する部分を抽出後コード化し、カテゴリー化した。

倫理的配慮：研究への参加や途中での辞退は自由であり匿名とする。録音したテープは研究終了後には破棄する。研究への参加を断っても不利益はないことを説明し同意を得た。

【結 果】

支援的ユーモアの導入により、緩和ケア病棟看護師の仕事に向かう姿勢は次のように向上した。その抽出された要素は「気持ちを落ち着かせる時間ができ、和んだ気持ちで仕事に向かう」「自分の精神をポジティブに調整」「自分の心情に気づき自分を振りかえる」「チームの波長が一つになり仕事を始められる」「違った見方も受容でき、患者に接する態度が柔和になる」の 5 つであった。

【考 察】

支援的ユーモアの導入はゆとりの時間をもたらし、看護師の前向きな姿勢を維持する助けとなった。つまり緩和ケア病棟看護師のモチベーション向上に繋がったことが示唆された。

〔平成 20 年 7 月 4・5 日 第 13 回日本緩和医療学会（静岡）にて発表〕